



海外および国内経済

海外の動向

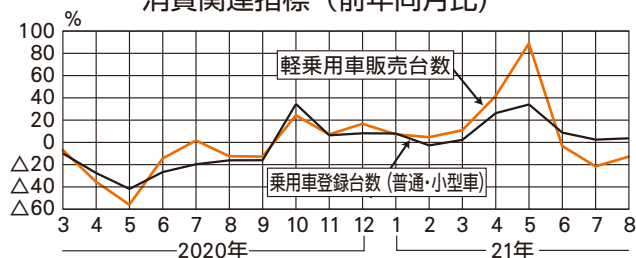
中国景気の減速感が強まる

米国の4～6月期の実質GDP（確定値）は年率換算で前期比6.7%増となり、改定値の同6.6%増から0.1ポイント上方修正された。個人消費や輸出が上方修正され、全体を押し上げた。プラス成長は4四半期連続となる。

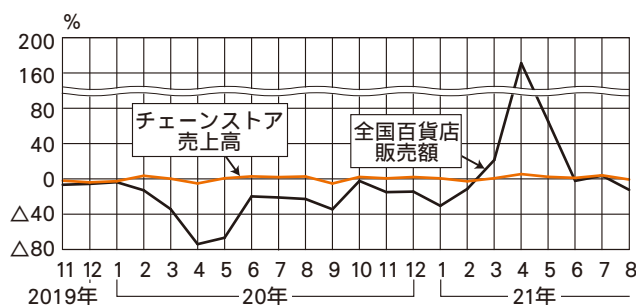
ユーロ圏の4～6月期の実質GDP（確定値）は、年率換算で前期比9.2%増と、改定値から1.0ポイント上方修正された。個人消費の改善幅が大きかった。

中国の8月の主要経済統計では、工業生産、小売売上高、固定資産投資ともに伸び率が前月から鈍化した。世界的な半導体不足や新型コロナウイルスの感染再拡大にともなう行動制限、政府による不動産規制などが影響したほか、不動産大手の経営危機への警戒感も広がっている。

消費関連指標（前年同月比）



資料：自販連（普通・小型車）・軽自動車協会（軽乗用車）



資料：百貨店協会・チェーンストア協会

国内の動向

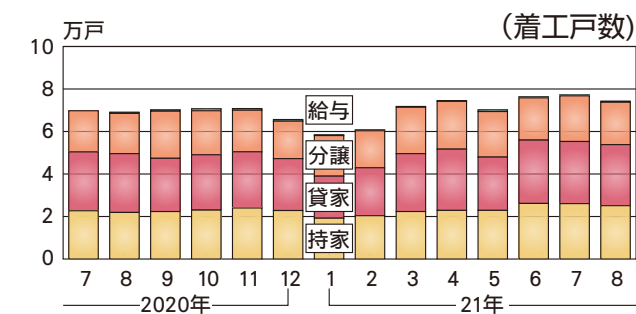
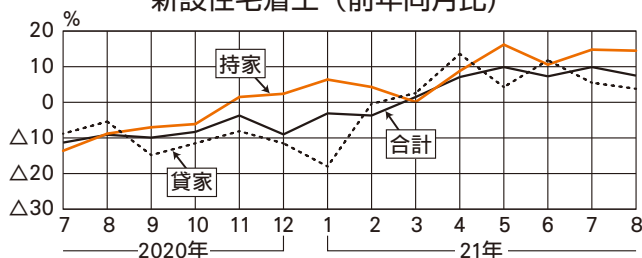
国内景気は「持ち直しのテンポが弱まっている」

内閣府は9月の月例経済報告で、国内景気の総括判断を「持ち直しの動きが続いているものの、このところそのテンポが弱まっている」として、4か月ぶりに引き下げた。項目別では、緊急事態宣言で落ち込んだ「個人消費」と、自動車の生産活動で東南アジアからの部品供給の不足が影響した「生産」を下方修正した。

一方、内閣府による4～6月期の実質GDP（改定値）は年率換算で前期比1.9%増と、速報値の同1.3%増から0.6ポイント上方修正された。企業の設備投資や医療費等の政府支出などが上振れした。

8月の有効求人倍率は前月比0.01ポイント低下の1.14倍と4か月ぶりに低下した。完全失業率は前月比横ばいの2.8%だった。

新設住宅着工（前年同月比）



資料：建築着工統計調査報告



個人消費は7月に盛り上がりも8月は低迷

7月の家計調査（二人以上世帯）では、実質消費支出が前年比0.7%増と、2か月ぶりに前年を上回った。東京五輪の自宅観戦により弁当などの調理食品が増加したものの、前年に支給された特別定額給付金による消費の反動減もあり、増加率は小幅にとどまった。

8月の販売関連の統計では、百貨店が前年比11.7%減と2か月ぶりのマイナス、スーパーも同0.1%減と6か月ぶりに前年実績を下回った。百貨店では「デパ地下」での集団感染や入場制限の実施が影響、スーパーでは内食需要で食料品が堅調も、衣料品、住関連商品が落ち込んだ。

一方、乗用車は前年比3.7%増と6か月連続で増加したが、軽乗用車は同12.8%減と3か月連続で前年を下回った。

住宅着工は6か月連続で前年比増加

8月の新設住宅着工戸数は、前年比7.5%増の74,303戸と6か月連続で前年を上回った。利用関係別でも持家が同14.5%増、貸家が同3.8%増、分譲住宅が同5.3%増といずれも増加した。

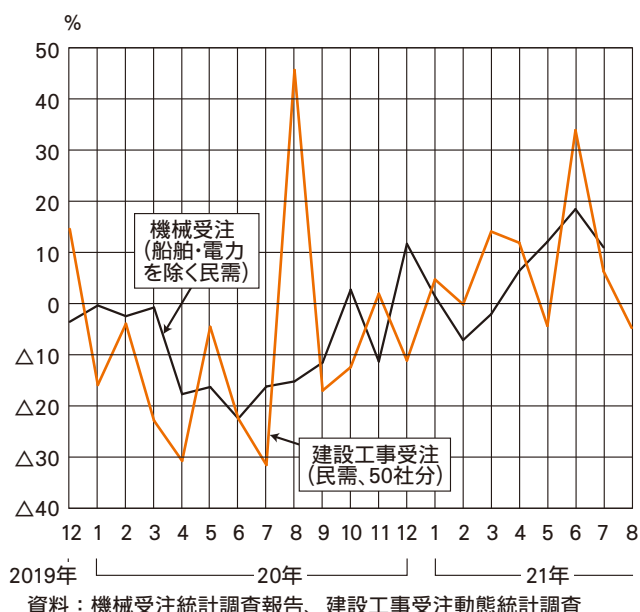
設備投資は製造業が強い反面、非製造業は弱い

7月の機械受注統計では、設備投資の先行指標となる「船舶・電力を除く民需」の受注額が8,597億円、前月比0.9%増と2か月ぶりに増加した。うち製造業は同6.7%増と4か月連続の増加となったが、非製造業は同9.5%減と3か月ぶりに減少した。製造業では「造船業」や「電気機械」等が増加した一方、非製造業では「卸売業・小売業」や「運輸業・郵便業」等が減少しており、感染状況の悪化により非製造業に下押し圧力がかかった。内閣府は、基調判断を「持ち直しの動きがみられる」に据え置いた。

鉱工業生産は「足踏みをしている」

8月の鉱工業生産指数速報値は、前月比3.2%低下の95.0と2か月連続で低下した。「自動車工業」、「電気・情報通信機械工業」等、全15業種中12業種が前月より低下した。半導体不足やアジアからの部材調達不足が影響した。先行き生産予測は、9月が0.2%上昇、10月は6.8%上昇。経産省は基調判断を前月の「持ち直している」から「足踏みをしている」に引き下げた。

機械受注、建設工事受注（前年同月比）



生産・出荷・在庫・在庫率
(季節調整済指数・2015年=100)

